

コラム

🌲 里山再生コラム：なぜ今「適切な量の光を入れること」が必要なのか？

「奥萩谷の森」再生プロジェクトの最初のステップは、木を切ること（間伐・除伐）から始まります。「木を切るのかわいそう」と思われるかもしれませんが、実はこれが森を救うための「手術」なのです。

1. 「緑の砂漠」からの脱却

手入れが止まった森は、木々が密集し、傘のように空を覆い隠してしまいます。すると、地面には一切の光が届かず、新しい草花や広葉樹の苗が育たない「緑の砂漠」と化してしまいます。私たちが光の道を作ることで、眠っていた土壌が目覚め、多様な命が再び動き出します。

2. 土を強くし、災害に強い山へ

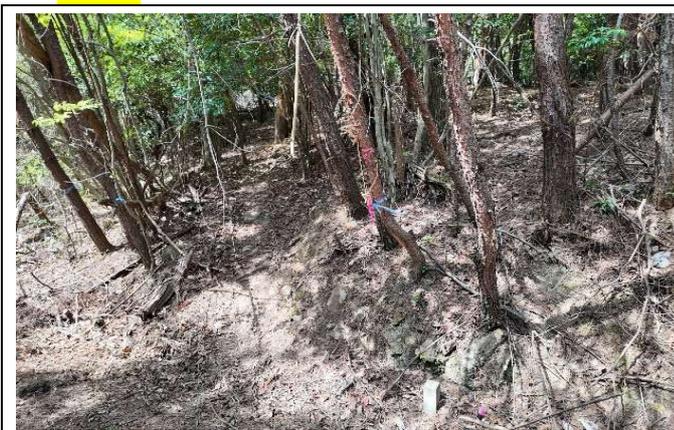
光が届かない山の地面は、根が十分に張れず、大雨が降ると土砂崩れを起こしやすくなります。適切な間伐を行うと、残った木々が大地に深く根を張り、下草が地面をしっかりとガードするようになります。これが、私たちが目指す「周囲の山林所有者の見本となる、災害に強い山」の土台となります。

3. 「奥萩谷」本来の美しさを取り戻す

かつての里山は、適度に人の手が入り、木漏れ日が揺れる明るい場所でした。「奥萩谷の森」を再びそんな風景に戻すために、私たちは一本一本の木と対話しながら、慎重に光の量をコントロールしていきます。

Before & After の一例

Before



After



休眠から目覚めたばかりの「奥萩谷の森」林道周辺

